



次期開催県あいさつ

沖縄県校長会

会長 宮國 義人

約900名の同士が集い、提言等をもとにface to faceで意見を交わし合う中で、互いに頷いたり笑顔になったりして、共感し、温感し響き合った2日間にわたる素晴らしい佐賀大会でした。これまで綿密な計画のもと、大会の成功に向けて一步ずつ着実に歩んできた佐賀県校長会の牟田尚敏会長様をはじめ、役員・事務局の皆様、佐賀県の全ての会員の皆様の御労苦に感謝と敬意を表します。本県会員から「佐賀県のおもてなしの心が素晴らしかった。」との声も多くありました。本当に有難うございました。そしてご苦労様でした。

大会を引き継ぐ私たち沖縄県校長会も佐賀大会の主題や趣旨を踏まえつつ、全会員の英知を結集し創造性を発揮して九小協研究大会の更なる充実と発展に努めて参ります。

その沖縄大会は、令和6年8月6日（火）に幹事会を、7日（水）と8日（木）に研究大会を那覇文化芸術劇場なは一とをメイン会場に開催いたします。2日目のアトラクションでは児童生徒による郷土芸能を、記念講演では本県で演出家・脚本家等として活躍している平田大一（だいいち）さんによる、「文化を基調とした地域づくり・人づくり」の講演を予定しています。どうぞご期待ください。

なお、沖縄県は、陸地面積は都道府県で44位と小さい方ですが、大小約160の島々が南北約400km、東西約1,000kmの広い範囲に散在し、島ごとに異なる歴史を持っている島嶼県です。また、歴史的にも独自の道を歩んできた背景があり、15世紀の初期に琉球王国が成立しますが、それ以前から日本本土をはじめ中国や朝鮮、東南アジア諸国と盛んに交易を行うなど、様々な文物がもたらされ経済的・文化的な中継地点として国家的な機能を有していました。現在もその独特な文化や芸能、芸術が色濃く残っております。

今では、観光立県として国内外を問わず多くの皆様が訪れることから、その文化や芸能、料理や泡盛は広く知られるようになりました。また、王国時代、中国からの使者（冊封使）を招き入れる工夫された文化が息づき「ウトゥイムチ（おもてなし）」や「イチャリバチョーデー（一度出会えば 皆兄弟）」の心は今なお県民のアイデンティティとして育まれています。

是非ともお越しいただき、実り多き研究大会にして頂くとともに、研修の後は本県の文化や歴史、伝統芸能、琉球料理に泡盛を心行くまでご堪能するなど、頭を磨き心と体を癒す大会にして頂ければ幸いです。昨年の長崎大会、そして今年の佐賀大会に学び、令和6年度の沖縄大会も必ず成功に導きます。沖縄県校長会会員一同、心からお待ちしております。「めんそーれ ♡ んみゃーち ♡ おーりとーり」うちなーへ。